

平成29年度卓話集会におけるディスカッションの概要

No.	地区名	質問・要望・提案	回答
1	馬場	説明資料の健康寿命のデータを見ると、大磯の健康寿命と平均寿命の差が少ないように見えるが全国でもそうか。全国的に言われている一人で生きていけるという健康寿命の定義と少し異なっているように見えるがどうか。	全国と比べると、平均寿命と健康寿命の差が大磯町は小さいが更なる短縮を目指す。健康寿命は一人で生きていけるということが定義になっている。町は日常生活が自立していない期間を要介護2以上の状態と定義している。
2	馬場	グラウンドゴルフが馬場では盛んに行われている。町には、スポーツを通じて他の地区との交流を盛んにする取組みを検討してほしい。	他の地区との交流については検討していく。町としても町全体が健康に配慮した政策を進めていくが、各自でも健康に気を配ってほしい。
3	馬場	老人だけでなく、町民が一丸となりスポーツを推進していく必要があると考える。町として町民が一緒になって活動するよう検討してほしい。そのための社会教育委員には、話合いの場を年内に設けてほしい。	町民一体となってスポーツを推進していきたいと考えている。社会教育委員との話合いの場については、教育委員会への話を投げ掛ける。
4	馬場	説明資料では町の健康寿命と平均寿命の差が少ないが介護保険料が年々増加していく。健康寿命の統計の取り方はどうなっているか。	65歳以上で要支援、要介護認定を受けているか否かを基準として統計を取っている。介護保険料の増加について福祉に手厚い手当をという要望が多く、福祉にかかる費用の増加と高齢者人口の増加によるものである。健康寿命の延伸により、介護保険料の増加の伸びを緩やかにして、皆さんの負担を軽減できればという町の考えである。
5	馬場	アンチロコモ教室に参加している。6か月間は体重等の記録を付けて健康に効果があったが、記録を付けることをやめると体重が元に戻ってしまう。アンチロコモ教室の回数を増やしてほしい。一度の開催で無く、継続してほしい。現在さくらサロン(ちいきの集い)にて体重等の記録をつけていこうかと検討している。	アンチロコモ教室の開催は強力に推進していきたいが、アンチロコモ教室は、外部機関にお願いしている事業であるため、継続した実施が可能かどうか検討していく。スポーツ健康課から後日回答する。 後日回答内容 効果を実感したアンチロコモ教室の内容を、さくらサロン(ちいきの集い)で、参加される高齢者の健康づくりに活かしたい。 地区において「アンチロコモ教室」と全く同じ形での開催は難しいが、ちいきの集いの中でお伝えできる内容等、質問者の方と調整しながら支援していく。

6	馬場	町の災害時に少年サッカーチームや少年野球チームの責任者に依頼して、高齢者だけでなく子ども達にも地域の防災に力を貸してもらえるように町から依頼してほしい。	町として一歩踏み込んだ話であるが、団体等との協議を検討していきたい。
7	馬場	東海大学に緊急医療センターを建てるという話がかつてあったがどうなったか。	東海大学が建設を計画した当初と現在とでは、医療分野の環境等が変わってきており、計画は進んでいない状況である。